

私には、普段当たり前前に感じてしまっていることやものがあります。例えば私は、毎朝同じ時間の電車に乗り、授業を受け、部活動に励み、電車に乗って家に帰ります。しかし、これは決して当たり前や日常ではないということに、私は気付きました。この感話では、当たり前とってしまっている大切なものや、ことについて考えたいと思います。

普段、何気なく通っている通学路に、一輪のきれいな花があるとします。しかし私は、急いでいたり、友達と話すのに夢中だったりして、その花の美しさには気付くことが出来ない場合がほとんどだと思います。もしも、その時私の心に余裕があり、一人で歩いていたりしたら、私はその花の美しさに気付き、じっくりとながめることが出来るでしょう。このように考えると、その時の状況や心境次第で、目に映る景色は全く違うものになってしまうのかもしれませんが。また、私が気付いていないのは花の美しさだけではなくありません。空の青さや春の風の暖かさなど、自然の物だけでも私が気付いていない物は山の様にあります。これらの全ての物は、いつも私の日常と化した日々の片隅に存在しているのだと思います。だとしたら、その一つ一つに対する私の意識を変え、それぞれに細かく注意を払うことによって、初めてその物一つ一つが描き出す美しさに気付くことが出来るのかもしれませんが。

もし自分の意識一つで見える世界が変わるのだとしたら、私にとって本当に大切なことは何なのでしょう。その日受けるテスト、部活の内容、提出する課題についてなど、目先のことにとらわれて毎日を過ごす私には、今まで本当に大切なことは見えていなかったのだと思います。自分が与えられた素晴らしい環境の全てに目を向けず、今自分がしなければならぬことやすべきことばかりを気にかけていました。もちろん、テストも部活も課題も全て大切なものです。きれいな花や青い空、全てが私にとって大切なものだと思います。このように考えると、この世に大切ではないものなど、存在しないのかもしれませんが。私がそのものの存在の大切さに気付くことが出来ずにいるだけで、見方によってはそれらも全て大切で尊いものなんだと思います。私は、自分が生きているという当然のようで、とても幸せなことに、毎日感謝することすら出来ていません。しかし、その大切さに気付き、感謝することも、簡単そうに見えて実はとても難しいことなのだと思います。本当に大切なこと、それは普段気付くことが出来ない大切なものの素晴らしさ、尊さに気付くことなのかもしれません。

この感話を通して、私は自分には普段気付いていない沢山のものがあること、それらに気付くことの大切さを考えてきました。この世界には、私が気付いていないことが沢山ある、それはつまり、人生を沢山楽しむことが出来るということを暗示しているのだと思います。どんなに小さなことでも、それに気付けたとき、感動は少なからずあるはずで、今まで苦手意識を持っていたこと、興味を示さなかったものでも、少し見方を変え、少し気持ちを切り換えれば、それらはかけがえのない大切なものになります。今までの私は、ずっと見て見ぬふりをしてきたのかもしれませんが。これからは「本当に大切なこと」を意識して、自分の与えられている恵まれた環境に少しでも多く感謝の気持ちをもてるようにしたいと思います。